

本庄市立地適正化計画（案）の説明公聴会での質問・意見

質問・意見の内容（要旨）	本庄市の考え方
<p>これまでも市で様々な計画をつくってきて、計画内容はよいものの、実現化されていないのが現状。自由経済のなかで、行政だけでやっていくのは限界があり、民間を巻き込んでいくことが必要です。</p> <p>また、人口が減少し、時代の変化を迎えているなかの計画としては、悲観的な印象を受けます。</p>	<p>人口については、死亡数が出生数を上回る自然減により、全体として減少しているものの、転出入はプラスマイナスゼロであり、市として定住施策を進めて頑張っているところです。市内でも一番人口が減っているのはまちなかであり、計画（案）では、国の新しい制度を活用して、まちなかに再び光をあてて、人を呼び込もうというのが狙いです。そのため、まちなかにおける住宅供給上の課題である狭い道路の解消、不動産流通を活発にするための土台づくりとしての地籍調査や、本庄駅周辺の整備などの様々な施策を進めてまいります。</p>
<p>商業施設の郊外立地が進んできた結果、まちなかにあるのは銀行と町医者だけで、商業施設が欠けています。生活するための利便性を確保するため、いきなり大きなことを計画するのではなく、できるところからやっていくことが必要だと思います。</p>	<p>（意見として聴取）</p>
<p>計画（案）には、人口増加に対応するために外側へ市街地整備を推進してきましたとありますが、我々の認識は違います。本庄早稲田周辺の市街地整備を行なったことで、まちなかに人口が減ったという認識を持っています。</p>	<p>人口が増加していた時代は、その受け皿としてまちなかの外縁部で区画整理事業を行なってきました。平成12年以降に人口が減少に転じたというのは、市全体の人口のことであり、本庄早稲田周辺の市街地整備を行なったから、まちなかから人口が減ったということではありません。</p>
<p>本庄駅や児玉駅周辺のまちなかの商業地では、後継者不足などで経営が継続できないという状況にあるため、子育てができる居住地として、まちなかを再生していくことが必要です。よって、概要版にある既</p>	<p>本庄駅周辺においても、子育ては力を入れていきます。商業施設も人がいないと経営が成り立たないため、まちなかに人を呼び込むための施策をやっていきます。概要版では、一部抜粋ということで、子育ての</p>

<p>成市街地（P3）や、まちなか居住（P4）の記述について、子育てのことを追加していただきたいです。</p>	<p>記述が抜けていますが、本編（P24）では「子育て世代から高齢者まで幅広い世代が安心・快適に暮らせ・・・」できるまちなかを目指すことを方向性として明示しています。</p>
<p>概要版で見たときに子育てのことが書かれていないので、子育て世代の私としては、概要版にも入れていただけるとありがたいです。西小のPTAを務めています。子育て世代の30～40代のお母さんに聞くと、宮本、泉、上町のところでも買い物ができる、住んでみたいという意見もあります。中心市街地についても、もう少し子育てのことに触れていただきたいと思います。</p>	<p>概要版のP3にあるように、子育てに関することは中心市街地も含め、本庄市全体での取り組みであり、魅力ある居住地の形成を目指すものとして捉えています。</p>
<p>概要版のその部分については、若い世代と高齢者だけになってしまっていて、30～50代のところが抜けています。この世代が子育てを一番頑張っているの、応援してあげられるようにお願いします。</p>	<p>（意見として聴取）</p>
<p>大きな計画のなかでものごとを進めていくことも重要ですが、目の前にある喫緊の課題に対処することがまず必要なのではないでしょうか。例えば、郵便局は地域の人にとってとても重要な施設ですが、仲町郵便局は空前の灯となっており、移転の可能性もあります。行政ができる範囲で、そこで営業が継続できるようなことをしていただけるとありがたいです。これまでの歴史をみると、まちなかからどんどん施設がなくなっていきます。なくなったら困るものについては、ぜひ行政としてもサポートしていただきたいと思います。</p>	<p>（意見として聴取）</p>